

「京都、馬町（うままち）空襲」

48年卒 石田泰和

京都は戦災がなかった数少ない都市の一つである、あるいは多くの文化財を守るために米軍が爆撃目標都市から外したため空襲から逃れられた都市である、といった都市伝説が長い間信じられてきました。

これを読んでいただくとそうではなかったことがわかります。また2011年（H23年）より地元有志によって立ち上げ、始められた「馬町空襲を語り継ぐ会」の地道な広報活動やホームページ開設の成果などでこの馬町空襲の詳細を知っていただくこととなり、ようやく最近になって京都在住の方々にはどうやら戦災から免れたというのは間違いで、京都市内も小規模ながら何回か空襲に遭って犠牲者が出たらしいと言う事実が伝わって参りました。

このエッセイをお読みの京都以外にお住まいの方々にはまだまだ浸透していない面もあり、是非この事実を知っていただきたく執筆させていただきました。

始めにお断りしておきますが当然のことながら筆者はまだ生まれておりません。これからお話しするのはすべて聞き伝えられたことや資料を集めてみての記述となります。



空襲直後の修道国民学校付近様子、奥の2棟は当時の学校の校舎で右の鉄筋の校舎は現在も修道小学校、東山小学校を経て現在東山総合支援学校として現役で使われている校舎

今をさること76年前（2021年現在）、1945年（S20年）1月16日午後11時20分頃、一機の米軍爆撃機B-29が飛来（B：ボーイングの略）、京都東山区馬町周辺一体に約20発の250ポンド（約113キロ）爆弾を投下、盲爆撃を行いました。

当時の京都としては初めての空襲でしかも空襲警報も何も出していなかった軍や市の手落ちもあり、大きな被害と犠牲者がでました。被爆地は私の住む町、修道学区、しかも自分の住んでいる町内にも至近距離で約80mぐらいのところに一発の爆弾が落とされて犠牲者、被害家屋も出ました。

爆撃地点は地元以外の方は距離感や位置関係がなかなかつかみにくいことかと思いますが、馬町は東山通り（東大路通）と五条通と七条の中間地点でバス停で五条坂の一つ南（京都駅方向）の交差点です。おおよその地点ですが清水寺のバスプールから西南方角に約500mぐらいが爆撃に遭った地点で、その半径200mぐらいの範囲とお考えください。ただ、東京大空襲など一般無差別破壊に用いられた※焼夷弾とは違い、爆弾そのものの爆撃空襲でしたが、あたり周辺には何ら軍事目標はなく、今もってなぜこの馬町が攻撃目標になったのかはいろいろな説があり、謎のままとなっています。

その後発見された米軍の資料などを照合すると、名古屋市の造兵廠（しょう）熱田製造所を第1目標にサイパン島を出たB 2 9が、曇りで視界不良のため名古屋を回避し「午後11時19分、高度約2万9千フィート（9千メートル）から250ポンドの高性能爆弾20発を京都市内に投下し、市中心部に爆発が起こるのを確認した」と書かれています。

ただ筆者が母親から何度も聞かされてきた話では当日寒い夜であったが寝床に入ってしばらくすると爆音が聞こえ相当長く何回も何回も上空を旋回して爆音が続いたが、父にそのこと（長い間爆音が続くのでなにかあったのか？）を告げると「家の前で車の故障で修理でもしてるんやろ！」と一喝されたといひます。その直後、地震のような衝撃と爆風で命の覚悟をしたらしいです。

このことから明らかに目標を定めるために旋回していたというのは他の資料からも読み取れますので、単に誤爆や視界不良で第一投下目標が第二目標に変わった、あるいは帰途する際の燃料節約のため無差別に落として帰ったというのは少し違うのではないかと思います、今となつてはなぜこの工場地帯でもない馬町に落とされたのかは永遠の謎になってしまいました。

爆撃直後、当時のことですから厳重な報道規制と箝（かん）口令が敷かれ、18日付の京都新聞の記事にも「**京都も戦場なり**」「**被害は軽微にして、市民の士気は極めて旺盛**」と何事もなかったように振る舞えといった方針で、新聞にも小さく報道されただけでした。

もちろん数ヶ月後に行われた東京、名古屋、大阪などの大都市圏での無差別爆撃で甚大なる被害や多くの犠牲者が出た大空襲とは規模が違ふとはいえ、当時の京都としては無警戒に近く、まさかのショックを与えたことと思います。

京都は文化財が多く有り、歴史的建物が多い都市であるから米軍の攻撃目標からは外れるので安心だろうという、当時から密かに語られていた噂話を断ち切るような戒めの意味もあって、こんな見出しになったのかと思います。聞くところによると当時はそろそろ大阪も危なくなってきたので京都や奈良に支店を移した企業や商店も多くあったとのことだす。

そういうわけでこの東山のこの地で空爆があつて多くの犠牲者や大きな被害が出たという事実は時代とともにどんどん風化していく一方で、なかには京都市で使われている小学校の教科に

も堂々と、「京都は空襲がなくて戦災から逃れられた都市の一つです」などと記載されている有様、事情を知らない転任してきた学校の先生が教科書通りに授業をすると逆に生徒や地元民からこの空襲の事実を教えてもらおうといった事情がまかり通ってきました。

この中にあって是非ともこの地に馬町空襲の慰霊碑を建てて、この事実を後世に伝えようとの発起運動はずいぶん前から合ったのですが何度も裁ち切れになってしまっていました。今回永年の地元の想いである慰霊碑を建てて、馬町空襲の事実を後世に伝え、世に広める活動に参加させていただきました経緯やいきさつ、活動内容の詳細はこの場に掲載させていただきたいのですが、とてもページが足りないほどで報告せねばなりません、詳細は当方が作成しましたホームページを是非ご覧ください。

●Googleで「馬町空襲」で検索してください。

●動画はYouTube で「馬町空襲」と入力ください、2015年のNHKニュース番組です。小生も少しだけ登場しております。

●「馬町空襲を語り継ぐ会ホームページURL」 <http://www.umamachi.jpn.org/>



被爆直後と現在との同じ角度方向から撮影した貴重な写真

右：現在の渋谷通りにある渋谷交番付近から西方向に撮影、右の家並みは当時から現在もほとんど変わっていません。

左：馬町交差点東に100mほど坂を上った、渋谷通りがクランク状になっている付近、現在の上馬町郵便局付近の家屋（現宮川氏宅）、当時は天理教馬町宣教所がありました。壁にたくさんの爆弾の破片による穴が開いていて窓はすべて吹っ飛んで跡形もないのがわかります。

さて、活動も終盤にさしかかり、いよいよ念願の慰霊碑の序幕を行う当日、地元関係者マスコミ報道陣が大勢集まる中、除幕式のプレ集会でこれまでの経緯や経過報告を読み上げている最中のことでした。一人の中年女性が突然名乗り出られ立ち上がると「わたしが1歳のときに空襲に遭い、親が死亡したと養父から聞かされました。両親がどこでどう暮らしていたのか、名前すらわかりません。血のつながりのない養父からは『三十三間堂近くの交番に行けばわかる』と言われたのですが、怖くて行けませんでした。私も70歳を超え、最後のチャンスかもしれないとやってきました。せめて、両親のなまえさえわかれば・・・」

そのときこの式の司会を担当させていただいていましたが突然のことでしたので、思い当たる節はあったのですが当日スケジュールも詰まっており、その場では何も回答はできませんでしたが、このことはマスコミの興味の引くところとなり、後日NHKなどからあれからどうなりました、ご両親の名前は判明しましたか？などこの会に問合せはあったようです。

もし判明していたなら1本のドキュメント番組が出来上がっていたかもしれませんが、なかなかそうはいきません。結局その後の進展は個人情報保護などが妨げとなって戸籍がらみの調査はできず行き詰まってしまいました。

ただ個人的には当方が幼い頃から両親から聞かされていたこの空襲の話で、同じ町内で自宅の近くに爆弾が落ち、当夜お母さんと一緒に抱きかかえられていて寝ていた親子に爆弾の破片が命中、お母さんは首から上が吹っ飛んで即死、抱きかかえられた子供だけは奇跡的に助かったという話を何度も聞かされていました。

母親もちょうど一人目の長女を産んで3年目ぐらいの年齢でしたので、自分とほぼ同じ年代のお母さんが犠牲になられ、しかも女の子のが一人取り残されたという悲劇がオーバーラップして当時としては相当印象深くこの事実を受け止めたと思います。それとその犠牲者の住んでおられたのが同じ町内であることもあり、身近で起こった悲劇でもあったため、この話は相当後々まで何度何度も幼い頃から聞かされました。

除幕式の出来事はお聞きしたときに当方の住む町内の名前が真っ先に出ましたので、瞬間的にこの方がその該当者なのではと思い浮かびましたが、確固たる証拠がつかめなまま、その後時間をかけて収集資料から犠牲者名簿にあった名前と年齢を割り出し、20代～40代ぐらいの年代で女性らしき名前を選び出し、かつ火葬場の遺骨引き取りまで先人が調査され記録がありましたので、その引取者の町名などから鑑みて一人の女性が最終消去法で残りました。たぶんこの方がお母さんであろうという確信はもてたのですが、完璧な証拠まではたどり着けず、消去法による状況的証拠にとどまってしまいそれ以上は進展しませんでした。

馬町空襲から70余年、時代とともに高齢化が進みこの会の活動中にも当時を知る生き証人がどんどんお亡くなりになる中、もう少し早く、せめて10年前にこの会の活動を始めていればいろいろな方から当時の証言も得られ、もう少し核心に近づけたのではないかと残念に思います。これも詳しくはホームページにも記載しておりますので興味があればお読みください。

「馬町空襲を語り継ぐ会」の最後の活動として犠牲者銘板を追加で添えて当初の目的を完遂させてすべての活動を終了させていただきました

爆弾と焼夷弾との違い

※**焼夷弾**：爆弾のように破裂してものを爆破破壊する兵器ではなく、ジェル状ガソリンや油脂を袋に詰めて発火材による点火で発火爆発させ、製造コストも安く日本の木造建築を焼き払う目的で開発された焼却破壊殺傷目的の兵器。

日本の空襲には主にM69という焼夷弾が使われ、六角形の断面の筒に詰めた棒状の焼夷弾を38個束ねて大きな筒にいれ、クラスター兵器として空中で爆破発火させ空から多量に子爆弾を散布させた。着弾した家屋は一種の消せない火災が発生、焼失による大きな被害をもたらせ、多数の犠牲者が出た。

